

FASS、 海を越えて ベトナムに渡る



パナソニック再建の陣頭指揮をとった時の数々の記憶が交差するのだろう。世界的な経済不況の影響を受けてはいるというものの、国民の平均年齢が二五歳というエネルギーに溢れるベトナムでは、経営危機という経験はまだない。「ベトナム人に経営改革の話をしてもピンとこないのでは」。翌々日に予定されている講演の内容について頭を悩ませていた。

ベトナムで最初の財務イベント

二月二七日(金)の午後二時。ヒルトン・ハノイ・オペラホテルで、第一回目となる FASS フォーラム・ベトナムが始まった。日本 CFO 協会とベトナム CFO 協会の共催によるベトナムでは初めての本格的な財務のイベントである。ちょうど一年前、内務省の認可を受けてベトナム CFO 協会が発足し、計画投資省が推進するベトナム企業の財務会計力の強化のための具体的役割を担うこととなった。ベトナム国営の通信会社の CFO、ヌエン・バックさんが同協会の代表を務めているほか、その他主要メンバーもすべて国営の保険、郵便、食品等の大手企業の CFO が占めている。彼らの目下の課題は、大手の国営企業だけでなく、今後のベトナム発展を支える中小企業の CFO の育成だということ、彼らの呼びかけが功を奏し、会場にはベトナム人を中心に約二〇〇人が参加した。



簿記教育のないベトナム

ベトナムでは、チーフ・アカウンタントという財務省が定める資格があり、すでに多くの人が取得している。罰則規定はないものの、企業はこのチーフ・アカウンタントの資格を有する者を置かなければならないことになっているからだ。しかし、この資格は日本の簿記とは違い、法律の条文を丸暗記するような内容だそう、ベトナム人自らがこの資格の価値を疑問視している。この資格認定を手掛けている財務省の外郭団体のトップと話をした際にも、資格取得者数すらまったく把握していないという有様であった。ベトナム計画投資省をはじめベトナム CFO 協会のメンバーは、このチーフ・アカウンタントと CFO の役割の違いについて正しく啓蒙していくことが活動の第一歩だと語ってくれた。フォーラムの休憩中にも「ベトナムのチーフ・アカウンタントと CFO の違いは何なのだろうか」とベトナムの新聞記者からも取材を受けた。これから資本市場が成長していくベトナムでは、CFO という存在は経済発展のキーワードなのだ。

経理・財務の基本

「パナソニックの経営改革と CFO の役割」と題した川上さんの講演は、冒頭に紹介した本人の心配をよそに現地のベトナム人参加者にも通じたようだ。「CFO は数字を扱うのではなく、さまざまな社内外の関係者と

「ベトナムでは、CFO というのは将来なりたい憧れのポストらしい」。

パナソニックの前 CFO で現在同社の経理社員教育をリードするパナソニック経理大学学長の川上徹也さんが、ハノイ空港からホテルまでのタクシーの中で驚いたように話す。ベトナムにおける CFO 人気を素直に喜ぶだけというわけにはいかないようだ。川上さんには、ベトナムで初めての開催となった FASS フォーラム・ベトナムでのご講演のためにハノイまで飛んで来ていただいたのだが、「本当に会社が潰れるんじゃないか」と告白するほど深刻だった

対話するのが重要だと感じた」とする参加者からの感想もあり、「他人の気持ちになって考える『ウォーム・ハート』」というメッセージは、その後のベトナムの講演者も引用していた。CFO、経理・財務の業務という前に、企業人として尊敬されなければ誰にも信用してもらえない。ともすると、財務のテクニカルな部分に注目が集まる中で、こうした精神面の重要性についての話を聞けたことに感銘した参加者が多かったようだ。

アジア各国からも参加

ベトナムCFO協会は発足当初からグローバル志向が強く、発足後すぐにCFO協会の世界組織であるIAFFEI（国際財務幹部協会連盟）へ加盟した。そのため、今回のFASSフォーラムは、IAFFEIのアジア・サミットを兼ねて開催することになり、IAFFEIの元会長を務め現在専務理事であるヘルムート・シュナーベル氏がベトナムの加盟を歓迎するためにドイツより参加したほか、フィリピンのデロイトグループの創業者でIAFFEIの会長も経験したコンチータ・マナバート氏といったVIPが講演に参加した。プログラムの最後では、中国、台湾、フィリピン、日本と、各国で進めている経理・財務教育の状況と課題についてのプレゼンテーションが行われ、国際色豊かなアジアの祭典となった。世界的なりセセッションの中でCFOはどのような役割を担うべきか、どのような

CFOが求められるのか、約半日のフォーラムでさまざまな意見交換が行われた。

FASSをアジアの共通言語に

フォーラムのもう一つのテーマはFASSの国際化である。フォーラムの翌日、アジア各国のIAFFEIの代表約二五人が会議室に集まり、日本のFASSをベースとしたアジア共通の資格認定制度の構築について議論した。今回のIAFFEIアジア・サミットを迎えるにあたり日本から提案したもので、FASS検定の土台である「経理・財務サービス・スキル・スタンダード」を参考に、アジア各国がそれぞれ主催している試験や資格制度についての「相互参照」を可能にしようというものである。各国がばらばらに資格制度を運営していても、国境を越えたらどのような資格なのか受験者はおろか企業の方もよくわからない。FASSの試験体系をアジア共通のコード体系とすることで、各国の資格制度を二つの共通言語で比較できるようにすることがこの狙いである。各国の試験体系を変更する必要はなく、共通言語で説明しようという試みについての関心は参加各国いずれも高く、今後のさまざまな発展の可能性についての意見も出るなど議論は白熱した。今後、IAFFEIの中に国際資格認定の委員会を設置するなど、具体的な施策が来年度中にもスタートする見通しである。グローバル化が今後ますます進む中、経理・財務業務



の標準化、経理・財務の人材育成といったインフラについては、一企業だけ、また二カ国だけの努力でもなく、アジア全体のインフラとして効率的に活用していくことが望ましい。こうした動きが今後国境を越えたフォーラムを重ねる中で加速していくことに期待したい。

すでにFASS検定は日本のFASS検定をベトナム現法の実務に即した形にカスタマイズし、ベトナム語にて試験を実施している。キャノン、パナソニックといった大手日本企業が現地スタッフのスキル教育のために試験的に導入しているのだが、ベトナムCFO協会は、ベトナム企業の育成のためにベトナム版のFASS検定を本格的に普及させようと動いている。今回のFASSフォーラム・ベトナムを機に、アジア各国にFASSフォーラム、そしてFASS検定が拡大していくことを期待したい。

川上さんにベトナムまで来ていただくという機会を得たこともあり、ベトナム日系企業の日本人幹部による食事会を企画したところ、約二〇名が集まってくれた。現地の経理社員に対する教育の必要性は一同強く感じているようで、FASSの取り組みについて初めて知った方からも、この度の試みに対する応援の言葉もいただける有意義な会となった。来年度の開催にも自信が持てる結果となったことが何よりも嬉しく思う。

（日本CFO協会 谷口宏）